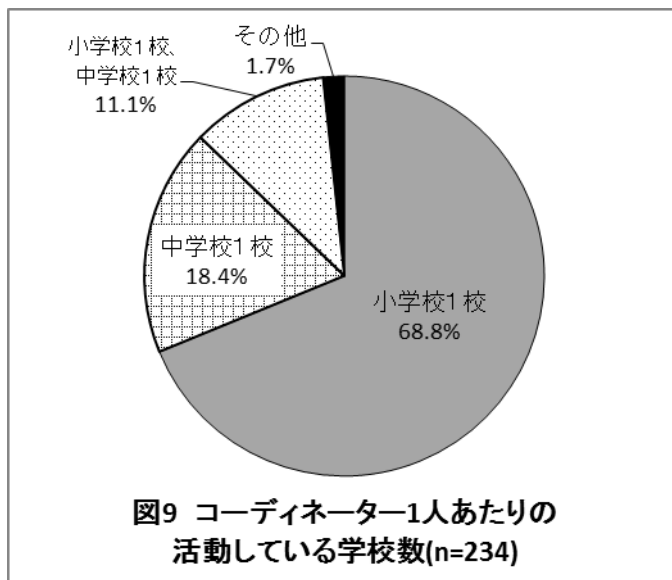


(2)コーディネーター

① コーディネーター1人あたりの活動している学校数

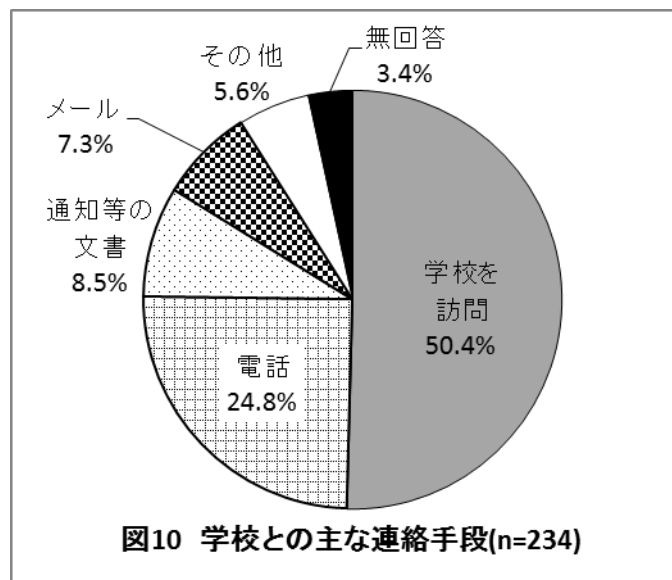


コーディネーターとして活動している学校数について、9割近くのコーディネーターが小学校または中学校どちらか1校で活動していることがわかった。また、近隣の小学校、中学校それぞれ1校ずつで活動している方も11.1%いた。【図9】

<参考>その他の回答

- ・小学校2校 1人
- ・小学校4校、中学校2校 1人
- ・小学校3校、中学校1校 2人

② 学校との主な連絡手段

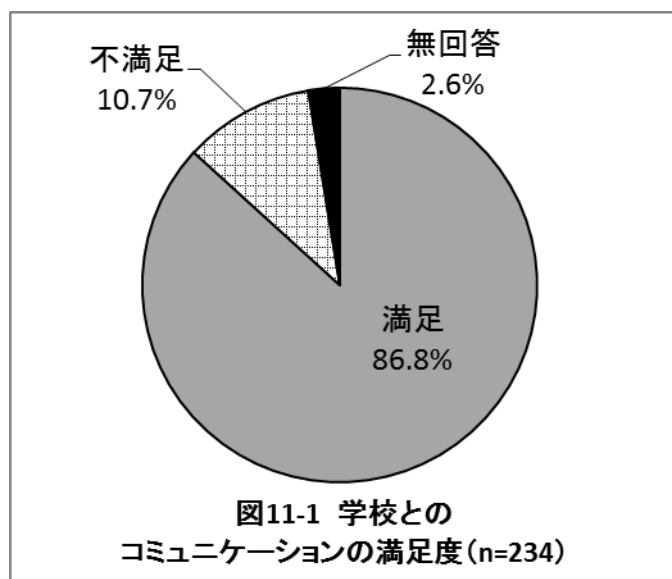


学校との主な連絡手段について聞いたところ、「学校を訪問して会って話す」と回答したコーディネーターが約半数であった。次に「電話で話をする」が24.8%と多かった。【図10】

<参考>その他の回答

- ・同校の職員同士
- ・FAXを利用
- ・SNS
- ・会議を通して連絡する。
- ・まだ実際の活動はスタートしていない。
- ・電話で連絡をいただき、訪問する。
- ・電話と文書を併用し連絡を取る。
- ・週に1度、放課後教室のため学校に行っているの、そのときに担当の先生と連絡を取り合う。
- ・コーディネーター会議(月1回)

③ 学校とのコミュニケーションについて



学校とのコミュニケーションについて、「満足している」と回答した割合は86.8%であった。その理由として「学校を訪問する機会が多く、その都度先生と話している」、「月1回打合せを行っている」等、会って話をする機会が十分にあるという回答が目立った。また、「活動にあたり、積極的に意見を交換している」、「打合せや相談をしながら活動の計画・準備をし、運営している」といった先生と一緒に活動を作りあげているという意見もあった。「活動している教室に必ず先生が来てくれる」、「コーディネーターの意見を丁寧に聞いてもらえる」、「担当の先生がよく声をかけてくれる」等の先生のコーディネーターに対する親身な姿勢・行動もコミュニケーションに満足している理由としてあげられた。さらに、「学校全体がコーディネーターの仕事を理解している」「担当の先生が不在でも、他の先生が窓口となり、伝言できる」といった学校全体での体制づくりや活動への理解に関する声も聞かれた。

一方、「満足していない」と回答した理由として、コミュニケーションの時間が取れないという意見が最も多くあげられた。また、コーディネーターとして指名されたばかりで、まだコミュニケーションが十分にとれていないという意見もあった。【図11-1、資料5】

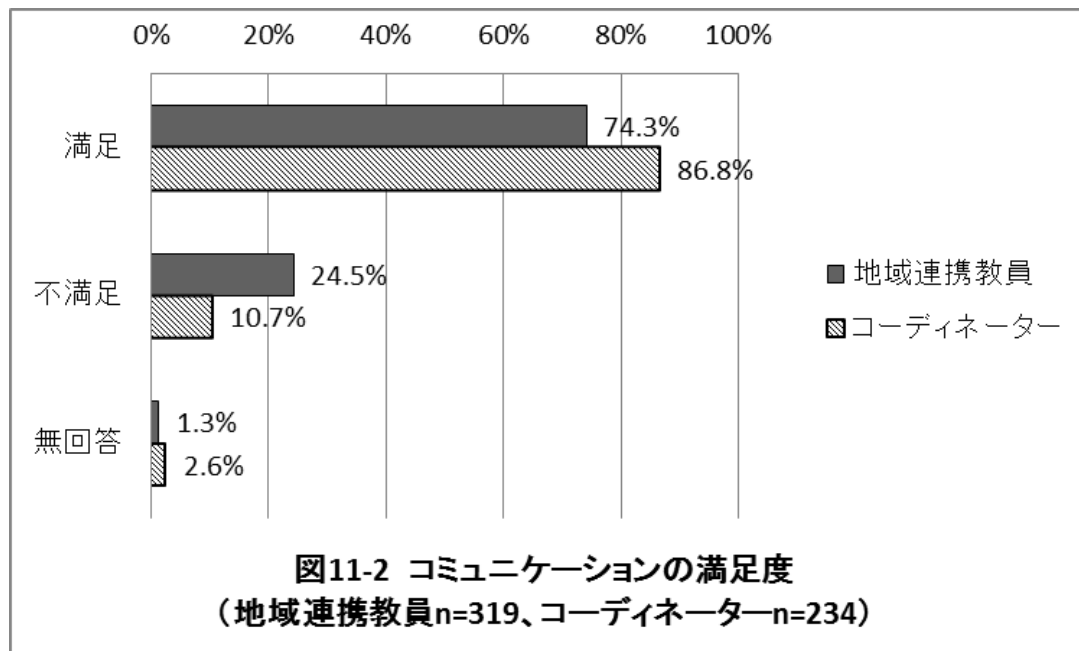
<資料5> 学校とのコミュニケーションの満足度に関する主な記述内容

■「満足している」理由

- ・定期的にメール、訪問で連絡を取っているから。
- ・地域連携活動推進関係者打合せを毎月行っているから。
- ・少なくとも週2回以上は職員室を訪問し、会う機会が多いから。また、顔を合わせた際、先生の方から話しかけてくれるから。
- ・活動にあたり、積極的な意見交換を実施しているから。
- ・お互いに案を出し合い、話し合いながら進めているから。
- ・どちらかが一方的ではなく、話し合いをしながら活動できているから。
- ・地域連携教員が話し合いに積極的に参加してくれるから。
- ・活動している教室に必ず先生が来てくれるから。
- ・事前に資料等を作っておいてくれ、打合せもスムーズにできるから。また、コーディネーターの意見を丁寧に聞いてくれるから。
- ・よく声をかけてくれ、些細なことでも気兼ねなく話すことができるから。
- ・活動後は、コーディネートをした内容について担当の先生が連絡をくれ、このことが活動への意欲と内容の向上につながっているから。
- ・担当の先生と会えない場合は、他の先生によるフォローがあるから。
- ・地域連携教員とそれをバックアップする体制があるので、情報交換に不便を感じていないから。
- ・副校長が窓口となり、担当の先生が不在でも伝言できるから。
- ・学校全体がコーディネーターの仕事を理解してくれているから。

■「満足していない」理由

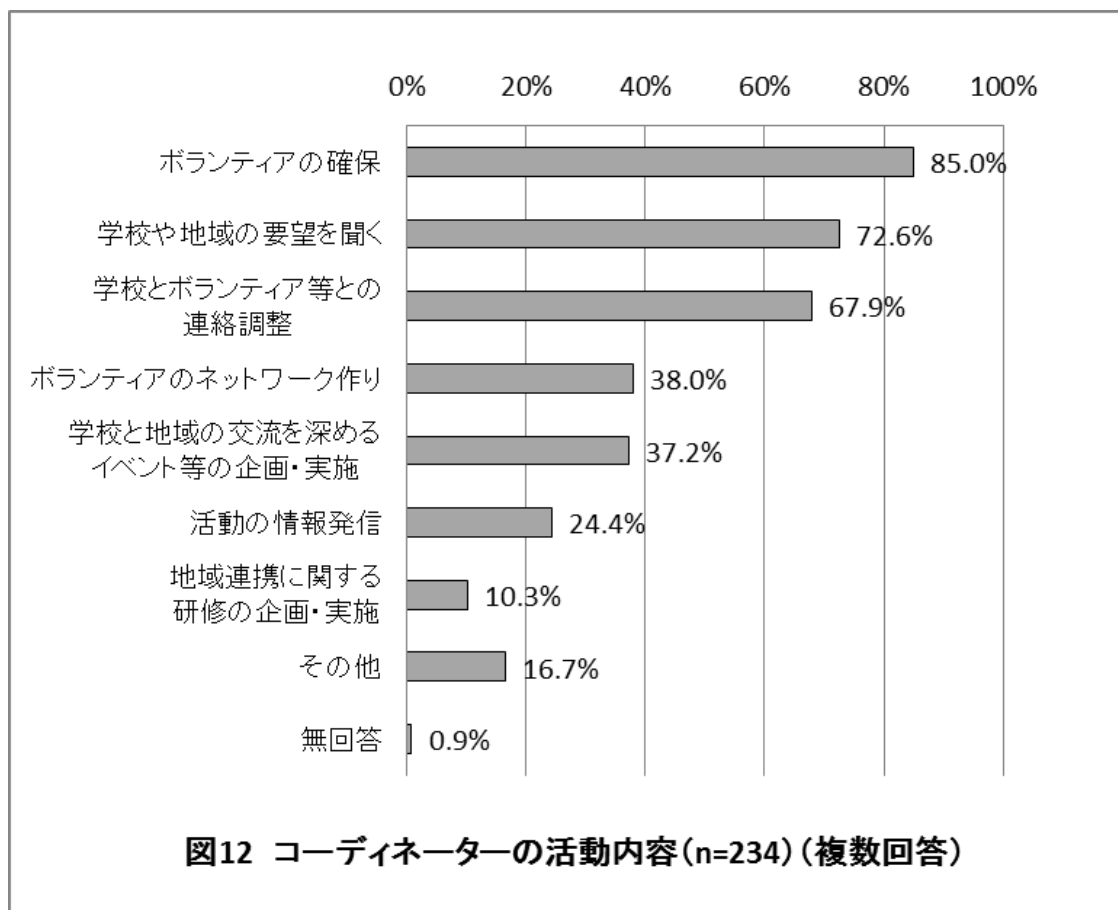
- ・先生も忙しいと思うが、事前の打合せが十分でないから。
- ・授業の進み具合に合わせてボランティアがどのような点に注意すればよいのか、打合せが不十分だから。
- ・コーディネートした内容について、活動後、担当した先生とのコミュニケーションが十分でないと感じているから。
- ・今年度からの活動なので、まだ活動が少ないから。
- ・まだ具体的な活動はしていないから。



コミュニケーションの満足度について、地域連携教員とコーディネーターの回答を比較してみると、コーディネーターの方が「満足している」と回答した割合が高いことがわかった。調査では、「自分が学校側の窓口となっていない」「連絡を取り合う時間の確保が難しい」等の理由から、コーディネーターとのコミュニケーションに「満足していない」と感じている地域連携教員は、担任をしている教諭では 35.0%、担任をしていない教諭では 31.3%いることがわかった(P10 資料 3、P11 図 4-2 参照)。一方、コーディネーターは、「学校全体がコーディネーターの仕事を理解している」「担当の先生が不在でも、他の先生が窓口となり、伝言できる」等の理由から、学校とのコミュニケーションに「満足している」と感じている人もいる(P18 資料 5 参照)。地域連携教員は自分がコミュニケーションをとることが難しいことに対して、コーディネーターは他の教員が代わりに対応してくれる等で学校とのコミュニケーションが図れることから、コーディネーターの満足度の方が高いと推測される。【図 11-2】

④ コーディネーターの活動内容について

コーディネーターの活動内容について聞いたところ、「学校支援ボランティアを確保する」が 85.0%、「学校の先生や地域(地域住民、ボランティア、外部団体・機関等)の要望を聞く」が 72.6%と高くなった。「ボランティア間の交流を深め、円滑な関係づくり(ネットワークづくり)を行う」、「学校と地域の交流を深める行事やイベントなどを計画したり、実施したりする」といった地域の住民同士や学校と地域間の相互理解を深める活動を行っているという割合は 4 割程度であった。また、「地域連携に関する研修を計画したり、実施したりする」と回答した割合は全体の 10.3%であった。【図 12】

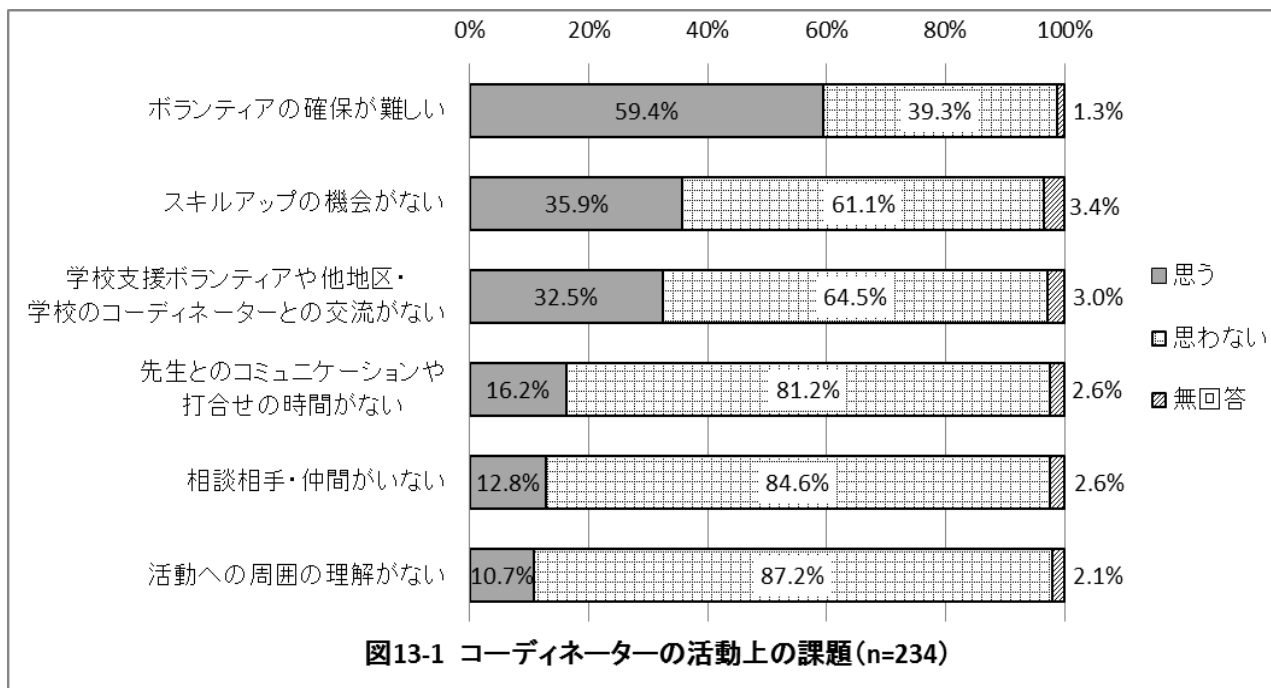


<参考>その他の回答

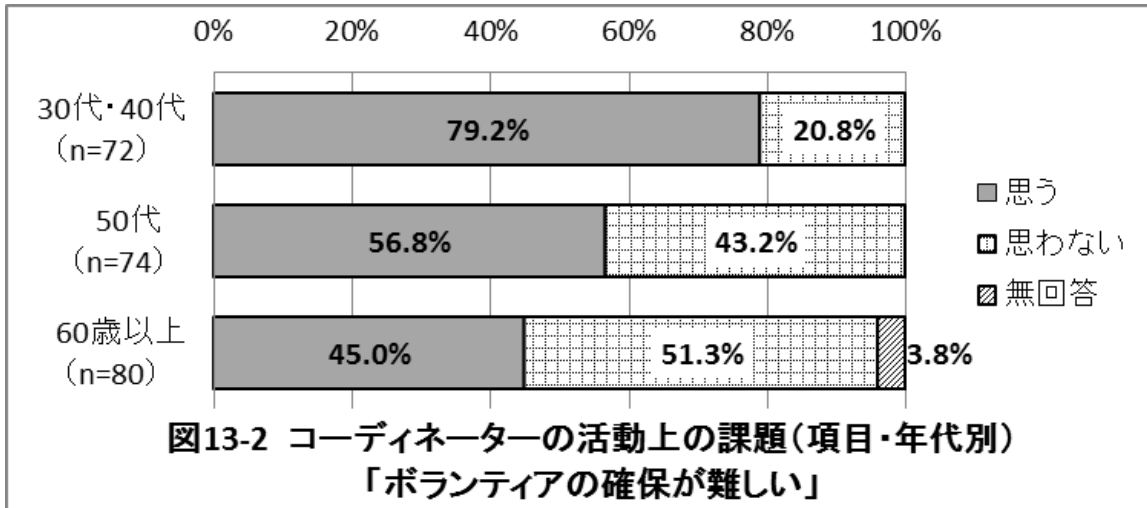
- ・公開授業等に計画的に出向いて、状況を把握する。
- ・学校行事を見学したり、参加をしたりしながら、学校の取組を理解する。
- ・ボランティア後、協力してくれた方々と反省等の話合い。
- ・外部の団体、機関等の会合に参加する。
- ・地域メッセへの参加、地域協議会の準備・地域行事のお手伝い
- ・学校(教員)とボランティアの交流・親睦会を設け、意見交換する機会をつくる。
- ・地域協議会の事務局として、担当の先生と協力しながら協議会の開催と協議会運営事務の全般を行っている。
- ・会議の準備・会議記録の作成・経費の精算など
- ・市への事業報告(ヒアリング含む)、会計全般、会議開催準備、物品購入
- ・学校からの依頼をまとめ、書類を作成して各ボランティアに渡し、まとめる。
- ・ボランティア団体の会議の時にお知らせ、募集、報告

- ・学校から地域の人へのアンケート。取りまとめる場合、単に配布するだけでなく、事項に即し、内容にあった人材を見つけて実施する。
- ・地域のイベントに積極的に参加し、コミュニケーションを深める努力をしている。
- ・市内のコーディネーターによる月 1 回の情報交換
- ・夏休みの作品仕分け等の手伝い
- ・夏休みのサマースクールへの全面的な協力
- ・学校支援地域本部委員(各自治会 1 名)との情報交換を心がける。
- ・放課後子ども教室の運営
- ・学校の文化祭を軸にした地域連携の拡大
- ・学校支援ボランティアとして活動する。
- ・地元警察と連携して青色パトロールを実施。
- ・学校支援組織「親父の会」の活動に参加・指導・協力。
- ・家庭教育学級の運営や支援
- ・活動広報紙の発行、会議だよりの発行
- ・年 3 回ボランティアだよりの発行
- ・担当する先生と月 1 回の地域連携活動推進打合せ会の実施。
- ・学校が安心して教育に打ち込める環境づくりを念頭におき、地域や学校の保護者ができる支援を考え、必要に応じて学校長と懇談する機会を設けている。
- ・まだ具体的に活動していない。

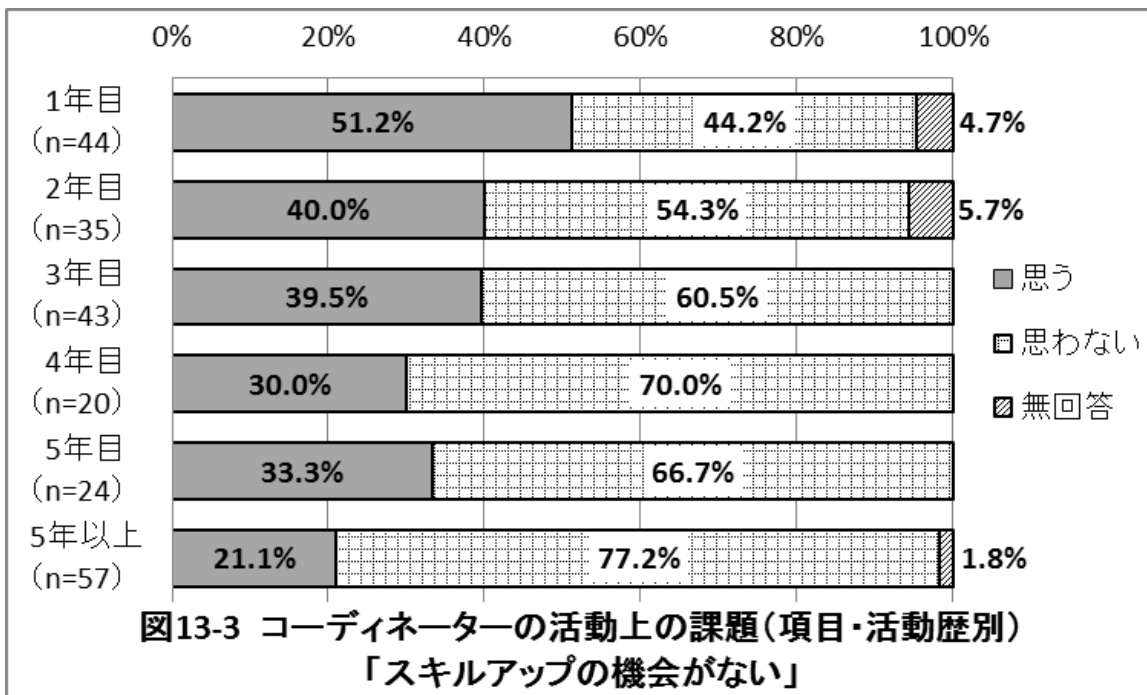
⑤ コーディネーターの活動上の課題



コーディネーターとして活動する上での課題として、【図 13-1】にある 6 つの項目について聞いたところ、「そう思う(課題だと思う)」と回答した割合が最も高かったのは「ボランティアの確保が難しい」で 59.4%であった。一方、「活動に関して、教職員や保護者、地域住民の理解が得られない」については 10.7%と最も低かった。



コーディネーターの活動上の課題について年代別に見てみると、コーディネーターの年代が若いほど「ボランティアの確保が難しい」と感じている割合が高いことがわかった。【図 13-2】



コーディネーターの活動歴別に課題を見てみると、活動歴が短いほど、自分自身のスキルアップの機会を求めている傾向にあることがわかった。【図 13-3】

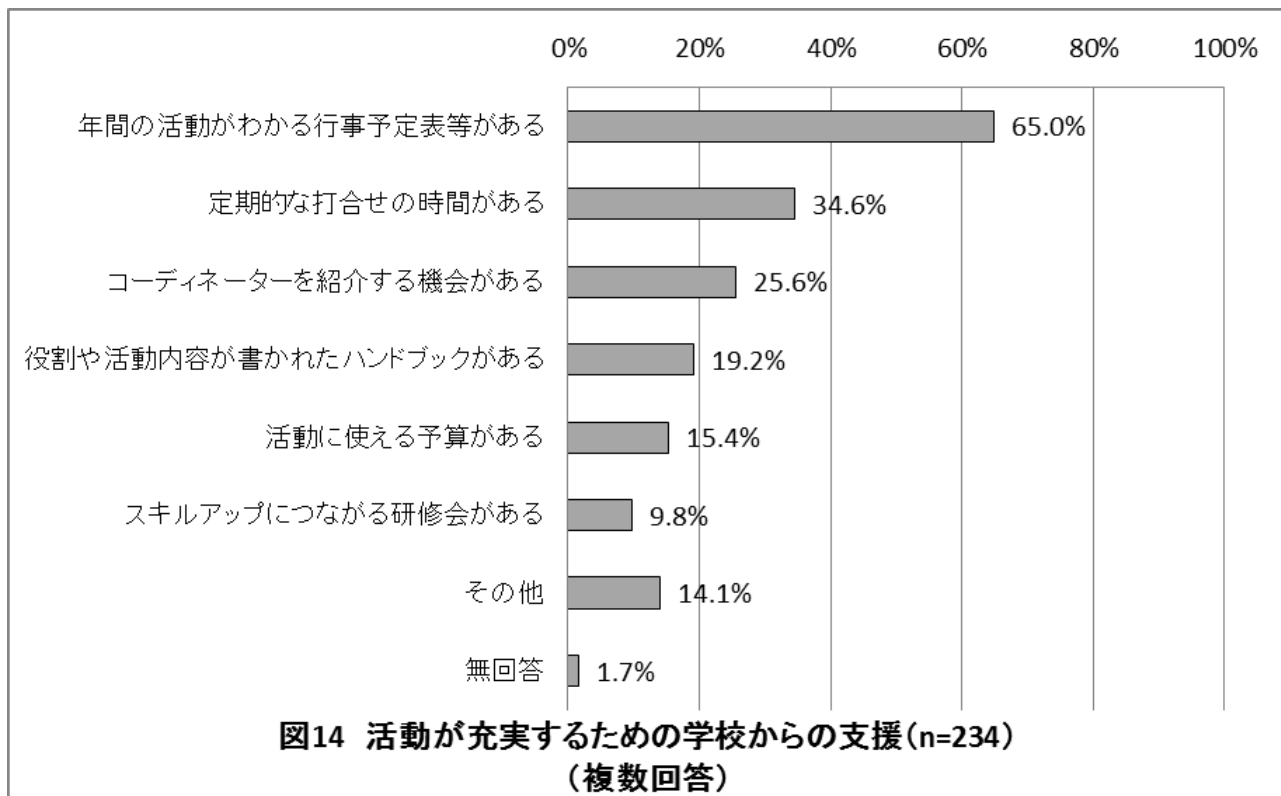
「その他」の課題として、「コーディネーターを複数名配置してほしい」、「コーディネーターである自分自身が忙しい」、「後任を見つけることが難しい」、「コーディネーターの認知度が低い」といった課題があげられた。

＜参考＞その他の回答

- ・学校に余計な負担をかけないよう、どう活動していくか。
- ・活動の継続(計画性)←自分たちの管理能力が低い。
- ・コーディネーターの認知度は低い。コーディネーターが複数ほしい。
- ・5人のコーディネーターがいるので助かっている。
- ・活動への周囲の理解がないことについて、教職員はそう思う、地域住民・保護者はそう思わない。
- ・学校からボランティア登録者全員に依頼があるわけではなく、活動の協力をお願いできない人がいること。

- ・ボランティアの人数の確保はできているが、複数のボランティアをかけもちしている方が多い。
- ・新しいボランティアの確保
- ・ボランティアの高齢化、固定化によって、活動自体が制約を受けつつある。
- ・活動を継続させるための後継者が見つからない。
- ・後役が見つからない。
- ・教育事務所の研修を受け(H18)、活動も10年間続けてきたが、そろそろ後継者づくりも考えていかなければと思っている。
- ・学校にどんなボランティアが必要か。どこまでボランティアが入っていけるか、入っていいのか、必要とされているのか、わからない。
- ・地域やPTA関係の行事が多く、地域協議会まで協力の手がまわらないように感じるため、負担をかけずに支援できるあり方を日々模索している。
- ・コーディネーターをしている自分自身、時間の都合をつけることが難しくなっている。
- ・コーディネーター自身が忙しいと(自分の仕事などで)研修等の参加が難しい。
- ・まだPRが足りないためか？学校支援ボランティア活動の認知度が低い。
- ・未来アシストネットの言葉や組織のことが地域に浸透していない。
- ・地域の課題や人材についてのアンテナをより広く持つこと。

⑥ コーディネーターの活動を充実させるための学校からの支援

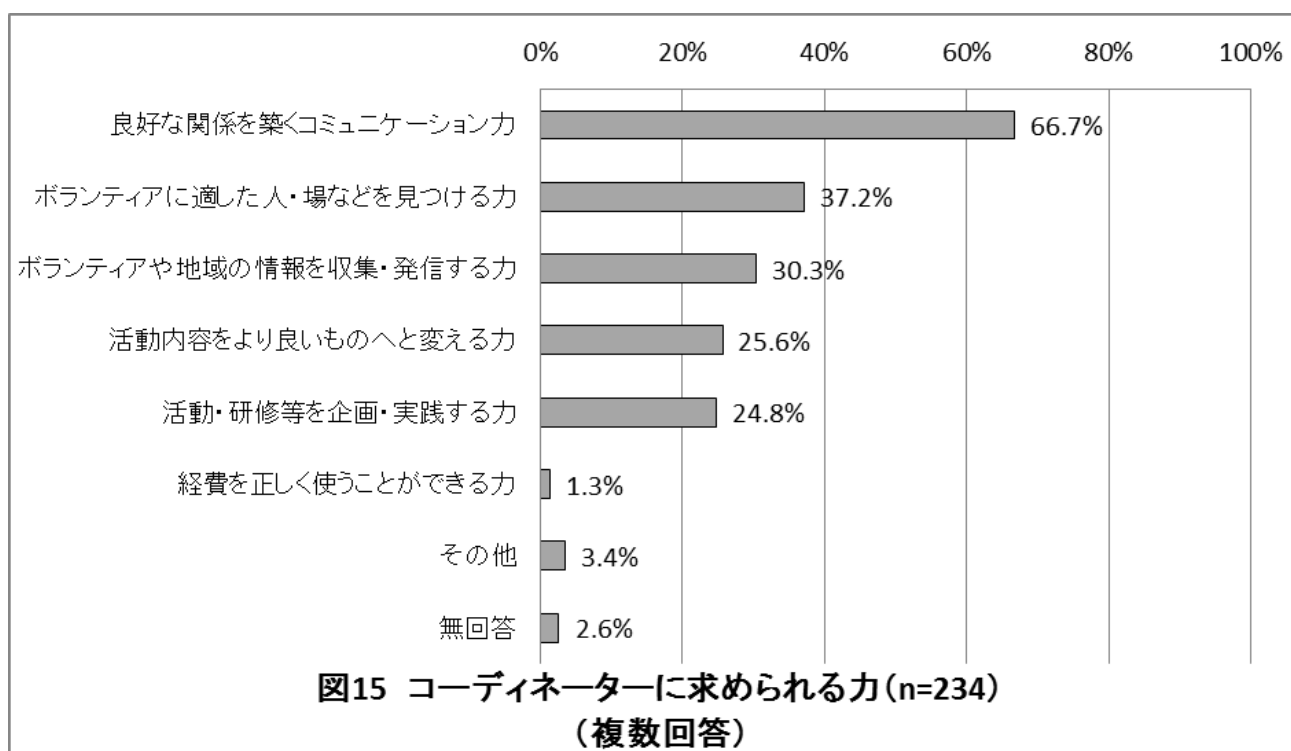


コーディネーターの活動が充実するために、学校からどのような支援があるとよいかについて聞いたところ、「年間の活動がわかりやすくなるような、学校支援ボランティアに関する行事予定表などがある」が65.0%と最も高くなった。【図14】また、「その他」の意見として、「コーディネーターやボランティアが活動・交流できる専用の場所がほしい」等という意見が見られた。

<参考>その他の回答

- ・ボランティア専用部屋があるとよい。現在コーナーなので、学校にスペースの許可をとらずに活動を行えると楽かも…。
- ・ボランティア・コーディネーターetc 活動できるスペースの提供
- ・(私が関わる学校にはあるが)共有でもいいので、コーディネーターやボランティアの活動拠点となる決められた部屋が設置されているとより充実する。
- ・コーディネーターが活動に使うことができる拠点(居場所)が学校内にある。
- ・資料を置けたり、作業が行える専用の部屋がほしい。
- ・ボランティアルームなどのボランティアの居場所
- ・ボランティアの居場所(ボランティア同士の情報交換)
- ・学校支援ボランティアと交流できる場があるとよい。
- ・ボランティアが身近に学校を感じ、支援しなければならないような雰囲気。ボランティア室がほしい。
- ・コーディネーター同士の情報交換の時間が定期的にあるとよい。
- ・学校が今何を必要としているのか、遠慮なく伝えてほしい。
- ・学校からどんなニーズがあるのかを把握したいので、どんなささいなことでも話しやすいことが大切。
- ・学校のボランティアに期待する活動内容がより明確になるとよい。
- ・コミュニティスクールの在り方を先生とシェアしたい。
- ・担当の先生以外の先生の意見・希望を知る機会がある。
- ・全部の先生の理解が同じように深められたらよい。
- ・学校から支援をいただく考えは全くありません。
- ・十分に足りている。
- ・学校歴や教育方針等があるとよい。
- ・ボランティアや先生との確実な連絡ツール
- ・学校の課題等の情報
- ・年度が変わるのに伴い担当の先生が替わるときなど、引継ぎをし、継続性を維持してほしい。
- ・ボランティア要請の際、日程に余裕をもって依頼していただきたい(1ヶ月前)。
- ・先生からもボランティアの人数が増えるよう、なるべく声をかけてもらいたい。
- ・先生たちのあいさつが力になっている。

⑦ コーディネーターに求められる力



地域連携を進める上でコーディネーターに必要な能力やスキルについて聞いたところ、「先生やボランティアと良好な関係を築くコミュニケーション力」と回答した割合が最も高く、66.7%となった。【図 15】

<参考>その他の回答

- ・学校の実情をしっかりと把握して、真に役立つ活動をする力。
- ・コーディネーターに責任や能力を求めない。誰もが気軽にコーディネーターを引き受けられる環境。
- ・子どもたちのため、学校のためといった奉仕の精神？
- ・想像力(それぞれの立場や事態を客観的多角的に捉えさまざまな場面を想定する力)と創造力(気づきや思いつきを大切に自分なりの工夫やアイデアを企画に生かす力)
- ・地域との人脈
- ・すべてを受け入れるのではなく、「NO」も言える力。
- ・時間的なゆとりがほしい。

⑧ その他、コーディネーターの活動・配置等に関する意見

コーディネーターの活動・配置等に関する意見として、コーディネーターの活動上の課題に関する意見が多くあげられた。

全体としては、ボランティアの確保が難しいという課題が多くあげられた。その理由として、「保護者は、仕事をしているため時間的な余裕がなく、ボランティアが集まらない」、「活動が保護者にきちんと理解されていないため、ボランティアとして手を挙げてくれる人がいない」等、身近なボランティアとして活動してほしい保護者の協力を得ることが難しいという意見があげられた。また、「これまで依頼していたボランティアが高齢となり、活動が難しくなった」といったボランティアの高齢化も課題としてあげられた。

長く活動しているコーディネーターからはコーディネーターの後継者に関する課題があげられた。コーディネーターを引き受けてもらえない理由として、「コーディネーターの役目は荷が重い」、「コーディネーターの活動に魅力がない」というイメージがあるのではないかとの意見が聞かれた。

40代、50代のコーディネーターからは、コーディネーターの負担が大きいとの声が聞かれた。コーディネーター自身も仕事や子育て等にまだまだ忙しい時期であり、「コーディネーターを中心に活動するのが難しい」、「責任や能力を求められると重荷を感じる」といった理由があげられた。

また、50代のコーディネーターを中心に、コーディネーターの予算(謝金)を付けてほしいという意見が出された。「無償のコーディネーターの活動を有償にしてほしい」という声とともに「コーディネーターの活動頻度や内容によって予算(謝金)を調整してほしい」との声が聞かれた。

コーディネーター活動の充実、負担の軽減、後継者を育成する等という視点から、コーディネーターの複数配置に関する意見も多くあげられた。

コーディネーターの活動上の課題に関する意見の他に、「学校の負担にならないように活動したい」、「学校の要望に応えられるように活動したい」といった学校への全面的な協力について意見を出されるコーディネーターもいた。

ここでは、主な記述内容のみ掲載する。【資料6】

※詳細はP72「学校支援のためのコーディネーターに関する調査(コーディネーター用) 問8 記述内容一覧」参照)

<資料6> その他、コーディネーターの活動・配置などについての意見に関する主な記述内容

- ・ボランティアへの依頼が大変で、一番のネックになっている。
- ・学校支援ボランティアの確保については、年度によってばらつきがあるように思う。理由として、学校支援ボランティアのような活動をしている人がいるということが保護者、地域の方に浸透していないからではないか。
- ・ボランティアの確保について。中学校では働き始める保護者も多く、企画してもなかなか集まらないのが課題である。
- ・長年担当し、定着しているボランティアが高齢となり、依頼が無理になった場合、バトンタッチできる人材を探すのは難しい。多少の技術を要するもの場合は特にそうである。
- ・地域の文化や歴史を知る人が高齢になり、いなくなった。
- ・コーディネーターの後任問題。バトンを渡す準備はできているのに渡す相手がいない。ボランティアならいいけど「コーディネーターはお断わり」。深刻である。
- ・コーディネーターに魅力がないと思う。だからコーディネーターどころかボランティアの確保すら難しい時代になっていると思う。
- ・コーディネーターは、普通の主婦や一般の保護者である。責任や能力を求められると重荷を感じる。
- ・個人的に多忙なため、コーディネーターを中心に活動するのが難しく、これから積極的に活動するには負担を感じる。
- ・同じ市内でも、学校によってコーディネーターの負担や存在感、依存度が大きく異なる。コーディネーターは、無償ボランティアではなく、場合によっては、有償であることも必要だと思う。
- ・有償で働くコーディネーターでなければ、十分に機能しない。
- ・コーディネーターもボランティアなので、複数配置をして負担を少なくし、活動が長くそして広く行われるようにしたい。
- ・活動の連続性維持のために、次世代のコーディネーターの育成が必要である。現在の学校ではコーディネーターが4名配置されているので持続的な活動が可能になっている。複数配置のメリットである。
- ・世代ごとにコーディネーターがいると、ボランティアの活動が広がると思う。
- ・学校の負担にならないように、子どもたちのためになる活動ができるとよいと思う。
- ・学校の要望にできる限りの協力ができるようにと思っている。